

スマホ利用者のライフスタイル研究Ⅲ

—ペアレンタルコントロールを実施している親の特性—

○近藤 勢津子, 水野 一成 (NTTドコモ モバイル社会研究所), 飽戸 弘 (東京大学名誉教授)

キーワード: ライフスタイル, 小中学生, ペアレンタルコントロール, スマートフォン

1. 研究背景と目的

スマホを小学生から持たせる親の特性について「スマホ利用者のライフスタイル研究Ⅱ」で明らかにした。小中学生が ICT 機器を利用することで、学習への取組が期待される[1]。その一方で、モバイル社会研究所が 2021 年 11 月調査した結果では、小中学生のスマホを持たせている親は、子がスマホを利用することによって「健康への不安」「個人情報の取り扱い・漏洩」等、様々な不安を抱えている状況である。本稿では、その対策の一つ「ペアレンタルコントロール」を実施している親の特性を明らかにする。その結果を子がより安心して安全に使うための一考としたい。

2. 調査概要

スマホ利用者のライフスタイル研究Ⅱを参照

3. 分析方法

本稿では小中学生にスマホを持たせている親(n=195)を分析対象とし、①ペアレンタルコントロールを実施している群(62%)②実施していない群(38%)を目的変数とし、説明変数は「親の属性」「親の ICT リテラシー (活用)」「この属性」等、11 項目として、数量化理論第Ⅱ類を用い、偏相関係数及びカテゴリースコアから親の特性を明らかにしていく。

4. 分析結果

判別グラフ及び各群の平均点より 1 群 (設定) が正の方向に、2 群 (未設定) が負の方向であった。なお、判別の中率は 77.0%、相関比 η^2 は 0.32 である。目的変数と説明変数間の偏相関係数を高い順に示したのが表 1 であり、図 1 のカテゴリースコアから設定する親の特性を読み取ると「小学生高学年」「親がゲームの利用頻度が低い」「世帯収入が多い」であった。また「子の性別」や「子のスマホの開始時期」は影響が少ない。

5. 考察

今回の分析によって、ペアレンタルコントロールを行う親の特性が示され、小学生高学年をピークに中学生になると設定をしない傾向となったのは、複数の要因が関係していることが推測される。未設定の内、凡そ 3 人に

1 人は最初にスマホを所有させて時は設定していたが、その後設定を外している。外す理由も様々で「親子間で利用のルールを定めた」場合もあれば、「子から強い要望を受けた」場合もある。子からの強い要望として想定される 1 つに子の交友関係があり、本稿の分析においても、友達の多いと未設定の傾向が見られた。また小学生低学年の設定が低いのは、子がスマホを利用する時、一緒に操作するなど直接管理していることが推測される。

また、スマホを所有させている親の特性と同じく「親の ICT リテラシー (活用)」の影響が見られた。これは、スマホを所有させ、どのように利用させるかにおいて、親の ICT リテラシーが影響を与えている可能性がある。

表 1 目的変数と説明変数間の関係

レンジ・目的変数とアイテムの相関係数					目的変数との相関		
アイテム名	レンジ		偏相関係数		クラメールの連関係数	p値	判定
学年	1. 19	3位	0. 28	1位	0. 22	0. 01	[**]
親のゲーム	0. 96	6位	0. 28	2位	0. 19	0. 02	[*]
世帯収入	1. 41	1位	0. 27	3位	0. 21	0. 05	[]
顔を合わせる時間	1. 17	4位	0. 25	4位	0. 11	0. 48	[]
友達の多さ	1. 37	2位	0. 24	5位	0. 17	0. 10	[]
子の成績への満足	0. 99	5位	0. 23	6位	0. 09	0. 63	[]
約束を守る	0. 73	8位	0. 23	7位	0. 19	0. 02	[*]
ICTリテラシー	0. 86	7位	0. 20	8位	0. 21	0. 01	[**]
個人情報への不安	0. 70	9位	0. 19	9位	0. 17	0. 05	[]
スマホ開始	0. 60	10位	0. 16	10位	0. 08	0. 51	[]
性別	0. 23	11位	0. 08	11位	0. 03	0. 67	[]

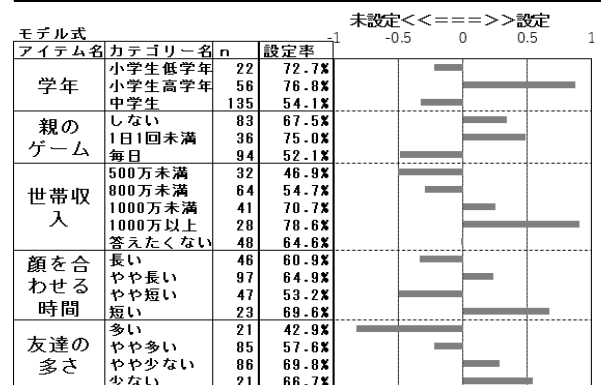


図 1 カテゴリースコア (偏相関係数上位)

小中学生がより安心して安全に利用するためには、どうすればいいか、今後も調査分析を進めていく。

参考文献

[1]栗原俊介, 吉良文夫, 飽戸弘, ケータイ・スマホ利用のライフスタイル研究(3)-小中学生の ICT 利用のライフスタイル特性- (2019), 『日本社会心理学会第 60 回大会抄録集』, 12